



## 互いに仲間と認め合う

年中 きりん組



連休前のこと、顔は分かるけれど名前やマークが直ぐに声になりません。「ねえねえ」「ちょっと」と声をかけ、「先生、あの子さあ～、あの子」と指さす先にクラスの仲間がいて「来ないんだよ」と困った顔で話していました。集合の時間なので声をかけたけれど、ブランコに乗っていてクラスに戻らないというのです。子どもたちは互いを気にし始めてはいるけれど、生活の流れの途中で集まることを共有していなかったり、自分が話しかけられていると思っていなかったりして、「あの誰？何、言ってるの？」と通じ合うまでにはいかない、そんな様子が見られました。

お互いをもっと関心をもってほしい、一緒にやるとはどういうことなのか知ってほしいと願い、そのきっかけになればと5～6人から成るグループをつくりました。そして、協同作業を通してお互いを意識してほしいと思い、クラスの前に置いてあるプランターにトマトの苗をグループで1本植えました。皆で土を柔らかくなるまでほぐして「いっせーのせ」でそ～っとかけて、「大きくな～れ」「甘いトマトにな～れ」とおまじないをかけます。グループの苗が分からなくなるとの声が出て、グループの看板をつくりました。互いの目の前でメンバーそれぞれのマークがかかれるのを見て、顔とマークを一致させることができたように思います。



連休明けのある日、「赤ちゃんが生まれた」（この表現が何とも可愛い）と、騒ぎになりました。小さい実がついていたのです。子どもたちはあ～という間に集まって来て覗き込みます。グループの意識も出てきて集まるのも早くなっていました。毎日、苗を覗いてトマトを数えて「増えた～」「大きくなった」と歓声をあげています。暑い日が続いたら葉もわさわさと繁ってきて、トマトを数えるのも大変になってきます。早く食べたくなくて手を伸ばしたところ実が落ちて、「あーあ」と責められて、「そ～っと」の加減を知ることになりました。

一方で「トマトは苦手」と言う声も聞こえています。皆でつくった物、幼稚園でなった物、周りが食べる姿を見て色々感じるころはあるようで、一口、挑戦することがあります。今年はどうでしょう。色づくのを待っている子どもたちです。

年中組になりクラスの代表として任せられる仕事が出来ました。レポーターです。出欠を調べ検温表を持って、事務所にいる市川先生に報告にいきます。9時30分になるとレポーターの二人は集まって、ロッカーを覗いてカバンがあるか無いかを確かめていきます。改めてロッカーがどこに在るのか、何処が誰のロッカーなのかを意識していくようになりました。二人で一緒に確認するのも大事なことです。二人揃わないと始められないので、自分を呼ぶ声が聞こえたら遊びを一度止めてクラスに戻って来ないといけません。もっと遊びたいのに仕事がある、気持ちの切り替えに時間がかかる人もいて簡単なことではありません。それでも仲間が「行けたの？」「言えた？」「うん」「今日のきりん組のお休みは3人です。～と～と～です。」と、皆の前で話す時は誇らしげに見えます。

26人の仲間が会って2ヶ月が過ぎました。少しずつ出来た、やれたと自信をもってきています。(教諭・高橋敬子)



## 発見！水の七変化

年少 たんぽぽ組



5月の後半から、朝、おうちの人と門のところまで一緒に来て、そこから先はひとりで保育室まで歩いて来られるようになりました。

朝の身支度を済ませると、室内外でそれぞれやりたいことを見つけて遊び始めている子どもたちです。

裸足になって水や泥、砂で遊ぶのが気持ち良い季節になりました。

気温が上がってくると、子どもたちは次々と手にバケツやじょうろを持ち、水を汲もうと水道に駆け寄ります。

その様子を見て保育者が「水をためようか」と、ホースでベビーバスに水をため始めると、その周りには、きまって人だかりができます。水面が光を反射してキラキラ光ったり、くるくる輪を描きながら流れたりする様子をじっと見つめながら、水がいっぱいになるまで待ちます。



ある時は、「あそこを温泉にしよう」「いいね」「手伝うよ」と言いながらせっせと泥場まで水を運び、流し入れました。そのあと、裸足でその中に入ってみると「気持ちいい！」「あったかい！」「あれ？こっちはあったかくない」「ここは深いよ」と足の裏でたくさんことに気づいていきます。

また、ある時は、穴をいくつもあけた容器で水を汲んでみると、水がシャワーのように出てきて、「雨だ！雨が降ってきた！」と歓声があがりました。「次もシャワーみたいになるかな？」「足にかけてみよう」「地面に、水の足跡がついた！」「容器と容器を重ねたらどうなるかな」と子どもたちは探究を始めます。

「ペットボトルで水をすくいたいのに、うまくいかない。どうしたらいっぱいできるのかな。」

「Aちゃんみたいに花びらを使って色水を作ってみたいけど色が出ない。どうしてだろう。」

「このカップに水を入れてただけなのに、コーヒーみたいになった。あれ？なんで？」

子どもたちには、遊びながら心の中でつぶやいていることがたくさんあります。

幼稚園での生活は、驚きと発見の連続です。

たんぽぽ組での生活が始まって2か月たちました。この驚きと発見を、近くにいる友だちや保育者と喜び、共感できることが、楽しさの一つになっています。

(教諭・阿部和香子)





## 年少

### またいきたいね

5月、きつねっぱら公園に出かけました。距離にして約1キロです。しかし年少組にとっては、この1キロが大冒険です。

自然が豊かな上水通りを歩きます。道中で目にする木々や、大小さまざまな形の葉っぱに目を奪われ、立ち止まります。道行く人と挨拶を交わし、また立ち止まります。1キロの間でたくさんの「道草」を堪能しました。「お腹すいた～」という声があがり途中で休憩をし、約40分かけて目的地の公園にたどり着きました。

公園には、様々な種類の樹木や木の実、緩やかな築山、そして走り回るのに十分な広さの原っぱがあります。子どもたちは木をじっと見つめ、「これなら登れそう」という木に目星をつけると木登りを始めました。公園の奥の方には、何やらぶどうのような実。「なんだろう？」と話していると、「桑の実」ということを教えてもらいました。

築山の周りでは、小高い山からの眺めを楽しんでいる子たちや、土管の中を探検している子たちもいます。みんなで来られた嬉しさからか、鬼ごっこやかくれんぼと一緒に楽しんだり、大人では絶対に入れない小さな草むらのトンネルを見つけ、中に潜り込んだりして、友だちと夢中になる姿がありました。

ちょっと早いですが、11時には昼食にしました。シートを敷いて、手をタオルでふき、いつもとは異なる準備を自分でしっかり行います。外で食べるお弁当はいつもより美味しく感じました。

帰りも、行きと同じく40分かけて歩いてきました。手を繋いで、クラスで歩くというだけでも年少組にとっては大変なことです。幼稚園によくたどり着き、ほっと一息つくと、子どもたちが「またいきたいね」とつぶやきました。みんなで行くことができた嬉しさが、この言葉に込められているように思います。私たちが思っている以上に、子どもたちにとってはワクワクドキドキする大冒険だったに違いありません。



## 園外保育に出かけました

っこが始まりました。自分たちでつくったボールやフリスビーを思いっきり投げたり転がしたり、地面に這いつくばって虫や花を発見したりした後は丘に向いました。斜面ではゴロゴロ転がったり、おしり滑りしたり鬼ごっこをしたり、スリルとスピード感を楽しみました。

11時過ぎに雨がポツリポツリとあたってきましたが「てるてる坊主」のおまじないが天に届いたのか、酷い雨にはならず、工夫して頂いたお弁当を広げ、ピクニック気分を味わうことができました。

時間はあっという間に過ぎ、バスに乗り込むとすっと眠りについた子もいます。良く動いた日でした。



## 年長

### 仲間と一緒に

大きなバスに乗って、クラスの仲間と出かけた小金井公園。普段見ている景色も仲間と一緒にだと、また新たな発見があり、話している間に小金井公園に到着しました。バスを降りて、こどもの広場に着くと、早速仲間を誘って思い切り走りだしました。



鬼ごっこをしたり、芝生の上をころころ転がったり、大きな木を目印に「だるまさんが転んだ」を大勢で楽しんだりしました。大きなオオバコを見つけ、相撲をとります。「勝ちたい！」その一心で、大きく太めのものを選びますが、子どもたちの予想とは違い、細いのに勝ち抜き続けるオオバコがあったり、くたくたに折れたオオバコが勝ち続けたり、その意外性に驚きながら勝負し続けていました。どのオオバコが強そうか、選び取る表情は真剣そのものです。続けていると、何本も重ねると強くなることを知り、たくさんオオバコを集めて、仲間と相撲をとっていました。へびいちごをとったり、シロツメクサで冠を編んだり、自然のなかで仲間と共に遊び、昼食をとりました。



## 年中

### 小金井公園、探検しました

バスに乗って行く初めての遠足。どこに連れて行かれるのか心配でドキドキしている人もいたようです。強張った顔の人もバスに乗るころには笑顔になり、窓の景色に「ここ知ってる」「家この近く」と、話すようになっていました。

小金井公園では、薄曇りの空を見て「てるてる坊主てる坊主、はやく天気におくれ」と歌いながら草原を歩きます。かばんを下ろしてトイレに行って、探検！開始です。歩け歩けどどんどん歩け。途中で犬の散歩をしている方に出会って「おはようございます」と挨拶したり、おおきな葉を拾って「傘、傘」と頭に乘せたり、クラスを見つけて「こっち見てよ」「おっきいね」「(びよんびよん飛び跳ねている姿を見て)かくれんぼしている」と驚いたりしています。辺りをきょろきょろしながら歩き続けて広場にたどり着くと、早速、走り出し追いか

外で食べるお弁当は、特別だったようです。途中、小雨が降ることもありましたが、そのこと自体も楽しみ、大きな木の下に入って雨宿りして、午後は、江戸東京たても園を目指していきました。昔の建物がある江戸東京たても園では、縄文時代の展示もあり、竪穴式住居も見ることができました。園に帰った子どもたちは、砂場で竪穴式住居を作ったり、木舟を作ったりし、見たことを熱心に再現していました。